

2021年1月8日

(幼保連) 認定こども園さふらん



園だより

1月号

1月の聖句

赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦される。

ルカによる福音書6章37節

明けましておめでとうございます。

晴天に恵まれたお正月でしたが、コロナの報道に新年の喜びも、どこかうつろな気分が漂っていました。そんな中で限定的とはいえ関東1都3県に緊急事態宣言が発令されました。これまで以上に感染対策（7日に3度目となる園バスの消毒を行いました）を講じながら子どもたちの健康を第一に歩んでいきます。

体調の悪い時には休ませるなど、いくつかの願いを「保健便り」に載せましたので、お読み下さりご協力の程よろしく願いいたします。

例年、お父様方にお手伝い頂いた年始めの「お餅つき」は、一人一人の子ども達も搗いて大いに盛り上がり、いろんな味のお餅をお昼に食べていました。今年は中止も考えましたが、餅つきの雰囲気は是非味わってほしいと願い、教職員が3臼ほど搗きます。子ども達は周りで静かに見て、搗きたてのお餅をお昼に一口ずつ食べることにしました。

入学・進級に向けた年度の締めくくりの大切な3学期、年長さんから年中さんへの飼育や放送の引継ぎや年中少が計画するお別れパーティー等々ありますが、計画の変更など柔軟に考えながら、子どもたちに体験してほしい事柄を厳選して保育を進めていきます。

今月の聖句について、創立者が1978年の便りで次のように記しています。

{これはキリスト教の教えの中心的なものです。これに続いて「与えなさい。そうすればあなたがたにも与えられる。」とありますが、卒業式の時に渡す『保育の証』にも印刷してあります。与え、与えられること、ゆるし、ゆるされることが、人間関係の基本ですね。誰か、ゆるされる必要のない人があるだろうか。ゆるす人がゆるされるのです。誰か、与えられる必要のない人があるだろうか。しかし、与える人が与えられるのです。だから、ゆるせ、与えよ、とは、人が幸福であるための第一の勧告ではないでしょうか。}

私も心からそのように思います。さふらんが大事にしている聖句です。

2021年1月の園だよりから

園長 早坂 悦子

明けましておめでとうございます。

お天気に恵まれたお正月、コロナの感染拡大の報に不安な新年となりましたが皆様いかがお過ごしでしたか。

7日には1都3県に緊急事態宣言が発令されました。去年の4・5月と違い限定的な措置とはいえ、これまで以上に感染対策を徹底しながらの生活になります。

幼い子どもたちにとって蜜を避けることはとても難しいです。その為ご家庭の皆様協力頂き体調の悪い時には無理をせず休ませてくださいますよう重ねてお願いいたします。

うさぎ組の部屋を訪ねるとみんな静かにおやつタイム、どの子も安心しきった無垢な表情が心に響きました。思い煩うことの多い我が身にこんなにも穏やかな時間が流れていることが、当たり前とはいえとても嬉しかった。

「あけましておめでとう」とりんご組のAちゃん、すると傍にいた子どもたちが次々に挨拶してくれました。気持ちを言葉にすることも上手になり、相手の思いも少しずつ分かろうとする姿に成長を感じます。

3学期は進級へ向けての大切な時です。りんごさんはさくらんぼさんとの交流を通して“一緒に年少さん”との思いをつなげていきます。うさぎさんは時々りんごさんのお部屋を訪問して一緒に遊ぶ中でお兄さんお姉さんになる4月を楽しみに待ちたいと思います。

寒さも本番を迎え、コロナの心配に加えインフルエンザにも気を付けなければなりません。健康であることを日々感謝して過ごしていきましょう。

今月の聖句の後に、「与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。」とあります。“ゆるし・ゆるされる・与え・与えられる”ことは人が生きる上での基盤ではないかと思えます。

1月のナーサリーだよりから

園長 早坂 悦子